

次回のご案内

第34回肝類洞壁細胞研究会学術集会

開催日：2020年12月17日(木)、12月18日(金)

会場：萃香園ホテル

テーマ：類洞壁研究の今昔物語

当番世話人：鳥村 拓司

久留米大学医学部内科学講座 消化器内科部門 教授

〒830-0011 福岡県久留米市旭町67

電話：0942-31-7561 FAX：0942-34-2623

E-mail：tori@med.kurume-u.ac.jp（鳥村）

ntoru2020@kurume-u.ac.jp（担当：中村 徹）

運営事務局：株式会社コンベンションリンクエージ

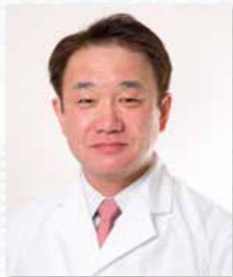
川原佑樹

〒812-0016

福岡県福岡市博多区博多駅南1-3-6第三博多偕成ビル

電話：092-437-4188 FAX：092-437-4182

E-mail：kawahara@c-linkage.co.jp



ご挨拶

第34回肝類洞壁細胞研究会学術集会

当番世話人

久留米大学医学部内科学講座 消化器内科部門

教授 鳥村 拓司

この度、第34回肝類洞壁細胞研究会学術集会を久留米で2020年12月17、18日に開催させていただき運びとなりました。伝統ある本会を担当させていただくことを大変光栄に存じています。

この研究会は当時久留米大学第二内科(消化器内科)を主宰されていた谷川久一先生が、市田文弘先生、和氣健二郎先生、高田昭先生方と1987年に久留米で開催されたのが始まりとなっています。当時、肝細胞以外の肝臓を構成する肝星細胞、類洞内皮細胞、クッパー細胞、ピット細胞などの形態や機能に関する集会は、海外にはクッパーシンポジウムがありましたが、本邦にはありませんでした。このため本研究会は、肝類洞壁を構成する細胞に興味のある多くの先生方が活発な議論を行う場となり、本邦におけるこの領域の進歩に多大な役割を果たしてきました。

第34回肝類洞壁細胞研究会学術集会が久留米で開催されるのは2008年に上野隆登先生が行われて以来となります。会場は第1回の研究会から使用された萃香園ホテルを予定し、会のテーマを「類洞壁研究の今昔物語」としました。これは、かつて昔の話を懐かしむのではなく、この会の出発点となった会場で、最新の研究に関し活発な議論をしていただこうと考えたからです。

現在、教員ともども全力で会の準備を行っていますので、2020年一年間に得られた各自の成果をもって、久留米で忘年会をするような気軽な感じで多くの先生方にお越しただけなら幸いです。

SINUSOID
NEWS

Vol.18

肝類洞壁細胞研究会

2020.4

特集

第33回肝類洞壁細胞研究会学術集会

第33回肝類洞壁細胞研究会学術集会は、大阪市立大学大学院医学研究科 機能細胞形態学 教授 池田一雄先生を当番世話人として、2019年11月30日、12月1日に開催され、100名近くの研究者、学生の皆様にご参加いただき盛会裡に幕を閉じました。

本特集号では、会長を務めていただいた池田一雄先生のご挨拶や、ご参加くださいました先生方からのご寄稿を掲載して、当日のすばらしいご講演と活発な議論を振り返りたいと思います。

Information

イベント情報

「APASL Single Topic Conference 2020 Osaka」





第33回肝類洞壁細胞研究会学術集会を終えて

第33回肝類洞壁細胞研究会学術集会 当番世話人
大阪市立大学大学院医学研究科 機能細胞形態学 教授
池田 一雄

去る11月30日、12月1日に、大阪あべのハルカスにて第33回肝類洞壁細胞研究会学術集会を開催させていただきました。格段のご高配を賜り誠にありがとうございました。100名近くのご参加をいただき盛会のうちに幕を閉じることができました。また嬉しいことに12名の先生に新規入会をいただきました。

特別講演の慶應義塾大学 末松誠先生、大阪市立大学 大谷直子先生には最新の知見をご発表いただき、また、フロアから予定時間を過ぎてもなお活発なご討議をいただきました。ランチョンセミナーやイブニングセミナーの講師の先生方には臨床における最新のトピックスを基礎研究者にもわかりやすくご発表いただいたと存じます。今回の目玉の一つとして企画いたしました若手研究者ワークショップでは、まさに次代のリーダーとなる先生達から臨床と基礎の橋渡しとなる素晴らしいご発表をいただきました。5つのセッションを設けました一般演題23題のうち特に優れたご発表を初日、2日目とそれぞれ1名ずつ顧問の織田正也先生、岡崎勲先生に選定していただき優秀演題賞として授与いたしました。第1日目は北里大学 伊藤義也先生が、2日目は東海大学 柳川享世先生がそれぞれ受賞されました。これは本研究会初の試みでしたが、次回からも研究奨励賞として継続することが世話人会で決定したこともご報告いたします。

懇親会は発表会場と同じフロアで行ったため、多くの先生にご参加いただきました。短い時間ではありましたがハルカスからの夜景を眺められる

レストランにて大阪地酒や大阪銘菓などをご提供いたしました。また山梨大学名誉教授 藤井秀樹先生から寄贈していただいた選りすぐりの山梨産ワインと大阪産ワインの味比べもお楽しみいただけただのではないかと存じます。

2日間にわたる質の高いプログラムで開催できましたことは、ひとえに参加していただきました研究者の先生方ならびに世話人・幹事の先生方のお陰と存じます。この場をお借りして御礼を申し上げます。また、学術集会運営に尽力してくれました教室員にも感謝いたします。

なお第34回学術集会は2020年12月17日(木)、18日(金)に久留米大学 鳥村拓司教授を当番世話人として、第11回まで当学術集会が開催されておりました萃香園ホテルにて開催されます。また第35回学術集会は2021年に新潟大学 寺井崇二教授によって開催されることが決定いたしましたことも報告させていただきます。

末筆ではありますが皆様の益々のご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げます。



当番世話人、池田先生による閉会のご挨拶

第33回肝類洞壁細胞研究会学術集会に参加して

北里大学医学部 薬理学
診療准教授 伊藤 義也

北里大学医学部薬理学教室の伊藤と申します。今回、大阪市立大学大学院医学研究科 機能細胞形態学 池田一雄教授が主催されました第33回肝類洞壁細胞研究会学術集会での発表に対して、優秀演題賞を受賞させていただきました。予想だにしないことに大変嬉しく思うとともに恐縮するところでもあります。選考に携わっていただきました関係各位、殊に本学会顧問であります織田正也教授に紙面をお借りしてではありますが、深謝申し上げます。これまで本学会には発表の機会を求めなるべく参加してまいりました。しかしながら、当方の発表内容は毎回のように主題が異なるものであり、どちらかというと「食い散らかし」に近いのですが、曲がりなりにも様々な病態肝を肝類洞壁細胞の観点から継続して検討してきたことが評価された一端であったものと推察しております。肝腎要といわれるように肝臓は腎臓と共に生体物質の処理を担当する極めて重要な臓器です。今後は腰が据わった研究に打ち込んでいけたらと考えております。

今回の学術集会も若手からベテランまでの研究者が多数参集し、会場は熱誠溢れ、本学会を通して肝類洞壁細胞研究をさらに前進させるべく気概を見聞きすることができたものと思います。「構造-機能相関の再考」を主題テーマとして掲げられたように、演題発表と質疑応答を通して肝類洞壁細胞の構造に対する理解をさらに掘り下げ、病態に回答した構造-機能変化を包括的に把握する重要性を確認することになりました。さらに、肝類洞壁細胞の適応反応とその是正にむけた治療への展開を目指す重要性を確認する機会となりました。またセミナー関連も最新のトピックにふれるとともに、問題点の整理に役立つものでありました。特に「腸内細菌関連物質による肝がんの進展メカニズム」と題した大阪市立大学大学院医学研究科 病態生理学 大谷教授の御講演は肝がんに至るまでの長期間のスパンにおける、腸内細菌関連物質の意義が浮き彫りにされたものと拝聴いたしました。最近の研究に関する方法論が急速に進展するにともない新治験が次々と見いだされています。研究室の身の丈にあった独自の研究内容をもって、今後も少しでも肝類洞壁細胞研究の進展に貢献できるように努力を重ねていきたいと存じます。



優秀演題賞を受賞された、伊藤先生のご発表



第33回肝類洞壁細胞研究会学術集会に参加して

長崎大学 原爆後障害医療研究所
准教授 赤澤 祐子

2019年11月30日～12月1日にあべのハルカスで開催された肝類洞壁細胞研究会学術集会に初めて参加させていただきました。

第1日目は近畿大学 萩原智先生によるDAA治療、そして群馬大学 調憲先生による星細胞研究とM2BPGi動態に関するランチョンセミナーに始まり、一般演題はNASHおよび肝細胞・類洞内皮細胞の基礎研究を中心とした大変興味深い内容でした。イブニングセミナーは日本医科大学 厚川正則先生によるC型肝炎のDAA治療、および大阪府済生会吹田病院 島俊英先生によるNASHの非侵襲的検査の詳細についてお話しいただきました。1日目の最後は慶應義塾大学 末松誠先生による特別講演「Imaging metabolomicsによるがんの代謝解析と医学への応用」を拝聴いたしました。



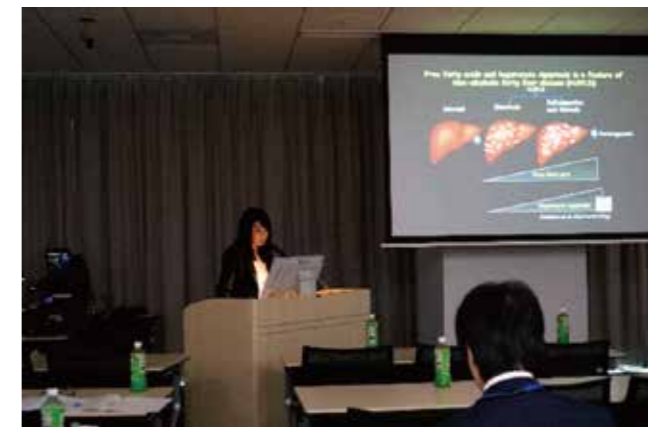
11月30日、機内から見た大阪。
穏やかな晴れの1日でした。(筆者撮影)

「富士山に登るとなぜ頭が痛くなるのか?」というわかりやすい導入から始まり、組織中の硫黄原子を含有する機能分子の同定、包括的解析を可能にしたImaging mass spectrometry、表面増強ラマンイメージングのお話をはじめとした最新の知見に圧倒されました。Scientificな内容もさることながら、途中織り交ぜてお話しいただいた「流行っていないことにチャレンジしてください。」「(ある現象を観察するのに)パーフェクトなテクノロジーは存在しない。自分が見ているものは嘘かもしれないことを念頭におかなければならない。」の言葉が心に残りました。懇親会では今まで知らなかった大阪の名産品をいただき、ライトアップされた大阪城を見ることができました。日ごろあまりお話しする機会がない他大学の先生方とも心置きなく交流ができ、楽しいひと時でした。

2日目は、一般演題では今話題のエクソソームの基礎から臨床応用の可能性についての発表が大変勉強になりました。また、大阪大学 疋田隼人先生、東京大学 木戸丈友先生、大阪市立大学 松原勤先生とともに若手研究者ワークショップでの発表の機会をいただきました。今回新たな試みということで、当セッションに参加させていただくことができ誠に光栄でした。特別講演では大阪市立大学 大谷直子先生による「腸内細菌関連物質による肝がん進展メカニズム」のご講演を拝聴しました。肥満の状態、デオキシコール酸を産生する腸内細菌が増加し、その二次胆汁酸が肝臓に輸送され、肝星細胞の老化を誘導するとともに

Senescence-associated secretory phenotypeを生ずることによって癌促進的微小環境を誘導する機序についてご講演をいただきました。ランチョンセミナーでは名古屋大学 田中靖人先生による非代償性C型肝炎に対する最新の治療と、SVR後の発がんリスクについての最新の知見をご講演いただきました。午後の一般演題では、線維化を抑制するための基礎研究や臨床応用に向けての試みが発表されました。

今回初めて参加させていただきましたが、勉強になるお話を多数拝聴することができ、非常に濃い有意義な2日間でした。あべのハルカス25階からの眺望も素晴らしかったです。学術集会を運営いただいた先生方に心より感謝申し上げます。



赤澤先生のご発表、若手研究者ワークショップにて



和氣先生のご挨拶、懇親会にて



織田先生のご挨拶、懇親会にて



懇親会の様子

第33回学術集会当番世話人事務局より

第33回肝類洞壁細胞研究会学術集会 当番世話人事務局
 大阪市立大学大学院医学研究科 機能細胞形態学 助教
 宇留島 隼人

第33回肝類洞壁細胞研究会学術集会当番世話人事務局を担当させていただきました大阪市立大学の宇留島隼人と申します。早いものでこの原稿執筆時は学会から2ヶ月以上が過ぎており、すっかり日常業務に戻っておりますが、昨年1年間は「会場確保できるかな?」「お金が集まるかな?」「たくさんの先生に演題登録してもらえるかな?」「寒くないかな? 雨、降るかな?」「何人来てくれるかな?」「赤字にならへんかな?」とずっと心配事に悩まされ胃が痛い毎日でした。お陰様でスポンサー企業、抄録集作成会社、機材会社の皆様に恵まれまして無事開催することができました。何人かの先生に「ご盛会おめでとうございます」と労っていただいたのですが、なんて素晴らしい言葉なん

だと感動いたしました。一度も使ったことのないフレーズですが、これからは使いまくろうと思っています。また、一般演題23名の先生方におかれましては、許されるのであれば皆様おひとりずつにハグをさせていただきたいくらい演題登録メールを頂戴した時は嬉しかったです。

学会後は若干燃え尽き症候群の症状が出ておりましたが、今は一肝類洞壁細胞研究者として今年の久留米大会で発表できるよう研究に励んでおります。皆様にまたお会いできますことを楽しみにしております。この執筆をもちまして、ついに当番世話人事務局のお仕事が終了いたします。お世話になりました方々に心より感謝いたします。ありがとうございました。



東海大学 柳川先生、優秀演題賞の授賞式にて




代表世話人、河田先生のご挨拶



Information イベント情報

APASL Single Topic Conference 2020 Osaka

◆ Conference Overview

Date	September 24 (Thursday) - 26 (Saturday), 2020	
President		Norifumi Kawada, M.D., Ph.D. Professor, Department of Hepatology, Graduate School of Medicine, Osaka City University
Theme	Molecular and Cell Biology of the Liver: Recent Evolution to Clinical Application	
City	Osaka Japan	
Venue	Hilton Osaka	

◆ Program at a Glance

	Day 1: September 24 (Thursday) 2020		Day 2: September 25 (Friday) 2020		Day 3: September 26 (Saturday) 2020	
	Room 1	Room 2	Room 1	Room 2	Room 1	Room 2
AM	Registration		Morning Symposium	Morning Symposium	Morning Symposium	Exhibition, Poster View & Presentation
	Opening Ceremony	Free Papers	Keynote Lecture Symposium	Free Papers	Keynote Lecture Symposium	
	Keynote Lecture Symposium					
	Luncheon Symposium	Luncheon Symposium	Luncheon Symposium	Luncheon Symposium	Luncheon Symposium	
PM	Keynote Lecture Symposium	Free Papers	Keynote Lecture Symposium	Free Papers	Closing Ceremony	
	Evening Symposium	Evening Symposium	Evening Symposium	Evening Symposium		
	Faculty Dinner		Welcome Reception			

◆ Important Dates

Abstract Submission Deadline	May 31, 2020
Early Bird Registration Deadline	July 31, 2020
Pre-Registration Close	August 30, 2020

